

国際協力を通じて地域と 世界の人々に貢献したい

公設国際貢献大学校救済室長
アムダ国際福祉事業団事務局次長

丸山尚人

さん 創価大学法学部卒業

「海外での人道支援だけでなく、地域や国内の人々にも役に立つ活動から始めてこそ、持続的な国際協力、国際貢献が可能だと考えています」

公設国際貢献大学校の丸山尚人さんはこう語る。公設国際貢献大学校は岡山県哲多町（現新見市）が二〇〇一年に設置、国際的な人道援助活動に関する試験研究や人材育成を目的とする公設民営の研修施設である。昨年四月からは元国連事務次長の明石康氏が校長を務めている。大学校周辺には関連施設の産婦人科を含むクリニックや老健施設もあり、地域の人々への医療提供なども行い喜ばれている。

丸山さんは、創価大学を卒業後、名古屋大学大学院に進んで国際開発学を学び、在ナイジェリア日本大使館に派遣員として勤務。その後、A.M.D.A.に入り、民族紛争の続くスリランカで医療和平プロジェクトなどに従事した後、二〇〇四年、大学校の救済室長に就任した。「スリランカでは、地雷に囲まれた村々を医師や看護師とともに



に巡回して、医療支援を行いました。ある夜、偶然出会った壮年から「六〇年前、日本はスリランカ（当時セイロン）まで爆弾を落とすために青年を送った。しかし、今は平和復興のために君のような青年がやってきた」と語ってくれました。今でも彼らの笑顔を思い出します。大学校では救済事業を担当し、これ

スリランカ北部の紛争で廃屋と化した施設の前で。医療和平プロジェクトのスタッフたちとともに（右下）

世界の平和に貢献する人材の育成を目指す創価大学は、グローバルに広がる世界の一流大学と交流をしています。現在、交流協定を結んでいる大学は、世界四か国・地域の二〇五大学におよび、毎年、二五〇名を超す学生が海外で学んでいます。世界への扉がいたるところに開かれている——それが創価大学です。

まで新潟中越地震やミャンマーのサイクロン被害、中国四川省の大震災など、計一〇回の救援活動に従事しました。スマトラ沖大地震のときは、医師とともに最も被害の大きかったインドネシアのアチエ州に行きました。そうした経験を踏まえて、地域の小・中・高・大学生や一般のみなさんに国際理解についての講義もしています」

丸山さんが、こうした道に進もうと決心したきっかけは、創価大在学中の留学経験にある。創価大は国際交流に力を入れており、留学や研修で海外を体験する学生が多い。丸山さんも英

国のマンチェスター大学で一年間、国際開発を学んだ。「留学先で、同じ創価大の佐々木諭先輩（現新潟大学大学院医歯学総合研究科助教・医学博士）に出会いました。国際貢献の意味や使命などについて多くを学ばせていただき、佐々木さんと話をしていると、何か目の前にぱっと道が開けてきました」

丸山さんは、帰国後、留学経験者の集いである「ワールド会」の副代表を務め、後輩の留学相談に乗ったり、小冊子を作るなど学内活動に励んだ。

「まだ日本では、NGOに就職することが一般の就職と同列には考えられない状況にあります。欧米諸国のように、もっと多くの人たちが国際協力の仕事に従事できるようにすることが理想ですね。そのために、これから一人ひとりを大切に一生懸命、努力していきたいと思えます」

「勉学第一。一〇年先の自分の姿を信じて」との創立者の言葉が、今も丸山さんの道を照らしていると言う。



Maruyama Naoto

まるやま・なると／一九七五年神奈川県生まれ。一九九三年神奈川県立厚木高校卒業。同年、創価大学法学部に入學し、九五年から一年間、英国マンチェスター大学に留學。九八年に卒業。同年名古屋大学大学院国際開発研究科に入學。二〇〇〇年（二〇〇二年、ナイジェリア）の日本大使館に派遣員として勤務。〇三年、NGO「A.M.D.A.」勤務。〇四年より現職。



創価大学の創立者池田大作先生は、平和と人権のためにトインビー博士をはじめ、ゴルバチョフ大統領やサッチャー首相、周恩来総理、ノーベル賞受賞者のポーリング博士やマータイ博士など、世界各国のリーダーやさまざまな分野の学識者たちと対話を重ねてきて

いる。1993年にはアメリカ公民権運動の母ローザ・パークス女史とアメリカ創価大学で会見（写真）。1994年には、同女史が創大を訪れ、「人間共は一人の人間の第一歩から一人権と自己開発のために」とのテーマで記念講演を行った。